共生文明論 II

科目ナンバリング　SOC-322
選択　　2単位

藤本　龍児

1. 授業の概要（ねらい）

現代の世界は、何によって動いているのでしょうか?

人や社会は、何かに突き動かされ、あるいは何かを目的にして動き、それによって対立や衝突が生じることにもなります。ある論者は、人や社会を動かすものは「政治的な理念」だ、と言います。またある論者は、「経済的な利害」だ、と言います。事実、第二次世界大戦が終わって、1991年にソ連が崩壊するまでの「冷戦」時代には、世界は二つの陣営に分かれ、イデオロギーや富をめぐって対立していました。

しかし「冷戦」が終結すると、それらとは別に「文化的な価値」が注目されるようになってきました。言語や歴史、宗教などが現代社会を動かしている、ということが改めてわかってきたのです。例えば、カナダにおけるケベックの分離運動や、ロシアにおけるチェチェンの独立運動、中国におけるチベットの抵抗運動などが挙げられます。そこでは、たとえ経済的に不利益をこうむったり、極端な場合には命を犠牲にしたりしてでも、運動に身を投じる人びとがいます。なぜ「文化」は、そこまで大きな力をもっているのでしょうか?

「文化」をおおよそ共有している広い範囲のことを「文明」と呼ぶことがあります。ふつう「文明」といえば、政治制度や経済システム、法秩序、産業構造など、いずれの社会にも共通する普遍的な仕組みのことを言います。しかし、それらの仕組みは、それを支える世界観や思想がなければ機能しません。ここでいう「文明」とは、個別の文化を含んだ具体的なものであり、それゆえ多様なものです。そして、現代の世界では、多様な文明のあいだで、対立や軋轢が生じているのです。

本講義では、こうした意味で現代世界を動かしている「文明」を論じます。とりわけ、現代文明のモデルとされている「アメリカ」を中心にして、多様な文明が共生していくためには何が必要か、ということを考えていきます。

2. 授業の到達目標

・「文化」と「文明」を思想史的観点から理解し、その成立の背景を理解する。
・「文明」と近代社会の関わりを理解し、「近代文明」の特徴を説明できる。
・「現代文明」とアメリカの関わり理解し、その問題を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

・原則として8割以上の出席を前提とする。
・適宜おこなう感想文の提出を必須とする。
・試験で講義内容とテキストにかんする理解度を問う。
・以上に授業態度をくわえ、総合的に判断して成績評価をおこなう。

4. 教科書・参考文献

教科書
　藤本龍児　『「ポスト・アメリカニズム」の世紀ー転換期のキリスト教文明』　筑摩選書
参考文献
　藤本龍児　『アメリカの公共宗教：多元社会における精神性』　NTT出版
　＊他の参考文献は、講義中に紹介する。

5. 準備学修の内容

リアクション・ペーパーによって明らかになった各自の課題を、次回までの準備学修の内容とします。
共有の課題については、授業のなかで適宜説明していきます。

6. その他履修上の注意事項

この講義だけで一つのまとまりをもっていますが、共生文明論Ｉを履修していることが望ましい。
講義は以下のような内容を計画しています。ただし、受講者の理解や関心に応じて柔軟に改変していきます。

7. 授業内容

【第1回】　はじめに
　　＊オンラインを実施する回については、状況をみながら判断し、お知らせします。
【第2回】　「アメリカの世紀」
【第3回】　アメリカニズムとは何か?
【第4回】　18世紀のアメリカニズム
【第5回】　19世紀のアメリカニズム
【第6回】　20世紀のアメリカニズム
【第7回】　グローバル・テロリズム
【第8回】　ポピュリズムとデモクラシー
【第9回】　現代のポピュリズムとトランプ現象
【第10回】　社会思想としてのネオリベラリズム
【第11回】　ハイエクの自由主義
【第12回】　政策としてのネオリベラリズム
【第13回】　ネオリベラリズムの改訂
【第14回】　「ポスト・アメリカニズム」
【第15回】　おわりに